

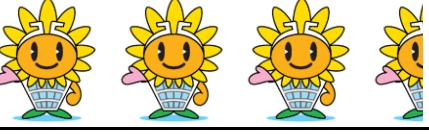
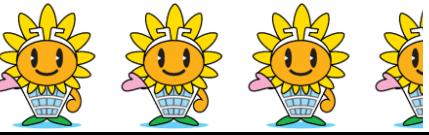
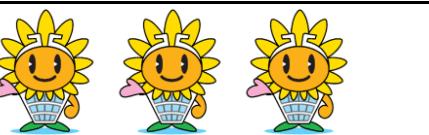
■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	アルコニックス(株) アルミ鋼センター(株)北九州支店	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★
------	-----------------------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.5 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.5 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.3 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.5
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.4
Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.5
Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.7
リサイクル材を採用すると共に、部材の再利用可能性の向上に努めている。	メンテナンス性・将来の更新等を考慮し、容易に作業が行える計画としている。
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.5
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3
LR2/ 1.1 節水	スコア 4
ライフサイクルCO2排出率を一般的な建物以下とした。	節水型器機を採用
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 2.3
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
緑地を計画し、生態系に危害を加えず周辺環境への負荷を最大限抑えた計画としている。	敷地外周に緑地 卓越風に対し見附面積を小さく計画
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級
	—
評価対象外	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEIm値、住宅: —
	—
	外構緑化指數 4 %
	建物緑化指數 0 %



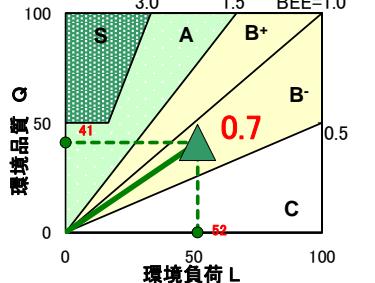
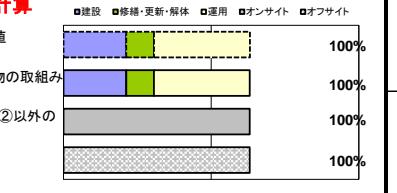
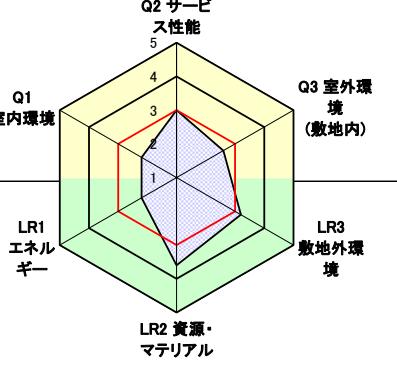
: 入力欄



: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アルコニクス(株) アルミ銅センター	階数	地上1F
建設地	福岡県北九州市若松区向洋町10-9	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	18 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,809 時間/年(想定)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年12月 予定	評価の実施日	2024年4月10日
敷地面積	27,192 m ²	作成者	岡本由佳
建築面積	3,692 m ²	確認日	
延床面積	3,775 m ²	確認者	
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	
BEE = 0.7 ★★		30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★	
S: ★★★★★ A: ★★★★ B: ★★★★ B+: ★★★ C: ★			
2-4 中項目の評価(バーチャート)		Q 環境品質	
Q1 室内環境	Q1のスコア= 2.2	Q2 サービス性能	Q2のスコア= 3.0
音環境 溫熱環境 光・視環境 空気質環境	3.0 1.0 3.0 2.7	機能性 耐用性 対応性	2.5 3.0 3.7
LR 環境負荷低減性		Q3 室外環境 (敷地内)	
LR1 エネルギー	LR1のスコア= 2.2	Q3のスコア= 2.6	Q3のスコア= 2.6
建物外皮の 自然エネ 設備システム 効率的	1.0 4.0 2.0 3.0	生物環境 まちなみ 地域性・	2.0 4.0 1.5
3 設計上の配慮事項		LR のスコア= 2.9	
総合	本工場は事業拡張に伴う北九州市内での移転・新設する工場である。効率の良い設備機器を使用し、エネルギー消費、環境負荷低減に繋がる設計としている。	その他	建物屋上には太陽光パネルを設置予定であり、自然エネルギーを有効利用したクリーンな発電を行う。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)	LR3 敷地外環境
対象外	メンテナンス性・将来の更新等を考慮し、容易に作業ができる計画としている。	北九州市の景観形成誘導地区(響灘地区)にあった外装計画とし、敷地周囲に緑地帯、高さのあるフェンスは彩度1以下のものを配慮して配慮している。	緑地を計画し、生態系に危害を加えず周辺環境への負荷を最大限抑えた計画としている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	Q3 室外環境 (敷地内)	LR3 敷地外環境
空調・換気・照明・太陽光発電のそれぞれの系統に電力メーターを設置することで設備を効率的に消費特性の傾向把握・分析を行える計画としている。	節水器具、リサイクル材を採用すると共に、部材の再利用可能性の向上に努めている。	北九州市の景観形成誘導地区(響灘地区)にあった外装計画とし、敷地周囲に緑地帯、高さのあるフェンスは彩度1以下のものを配慮して配慮している。	緑地を計画し、生態系に危害を加えず周辺環境への負荷を最大限抑えた計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフケーブルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケーブルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
アルコニクス(株)アルミ鋼センター(株)北九州支店移設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
配慮項目	スコア						
Q 建築物の環境品質							
Q1 室内環境							
1 音環境							
1.1 室内騒音レベル	3.0	0.15					3.0
1.2 遮音	3.0	0.40					
1 開口部遮音性能	3.0	0.40					
2 界壁遮音性能	3.0	0.60					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	0.40					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-					
1.3 吸音	3.0	0.20					
2 溫熱環境							
2.1 室温制御	1.0	0.35					1.0
1 室温	1.0	0.50					
2 外皮性能	1.0	0.38					
3 ゾーン別制御性	1.0	0.25					
2.2 湿度制御	1.0	0.38					
2.3 空調方式	1.0	0.20					
3 光・視環境							
3.1 昼光利用	3.0	0.25					3.0
1 昼光率	3.0	0.30					
2 方位別開口	3.0	0.60					
3 昼光利用設備	-	-					
3.2 グレア対策	3.0	0.30					
1 昼光制御	3.0	0.30					
3.3 照度	3.0	1.00					
3.4 照明制御	3.0	0.15					
4 空気質環境							
4.1 発生源対策	3.0	0.25					2.7
1 化学汚染物質	3.0	0.50					
4.2 換気	2.6	1.00					
1 換気量	2.6	0.30					
2 自然換気性能	1.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮	4.0	0.33					
4.3 運用管理	2.0	0.20					
1 CO ₂ の監視	2.0	0.50					
2 喫煙の制御	3.0	0.50					
Q2 サービス性能							
1 機能性							
1.1 機能性・使いやすさ	2.5	0.40					2.5
1 広さ・収納性	3.0	0.40					
2 高度情報通信設備対応	-	-					
3 パリアフリー計画	3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性	1.5	0.30					
1 広さ感・景観	-	-					
2 リフレッシュスペース	2.0	0.50					
3 内装計画	1.0	0.50					
1.3 維持管理	3.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保	3.0	0.50					
2 耐用性・信頼性							
2.1 耐震・免震・制震・制振	3.0	0.30					3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	3.0	0.50					
2 免震・制震・制振性能	3.0	0.80					
2.2 部品・部材の耐用年数	3.5	0.20					
1 軸体材料の耐用年数	-	-					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	3.0	0.25					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0	0.13					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.13					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	5.0	0.25					
6 主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.25					
2.4 信頼性	2.4	0.20					
1 空調・換気設備	3.0	0.20					
2 給排水・衛生設備	4.0	0.20					
3 電気設備	1.0	0.20					
4 機械・配管支持方法	3.0	0.20					
5 通信・情報設備	1.0	0.20					

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	階高12.0m	3.7	0.30	-	-	3.7
	1 階高のゆとり	-	4.6	0.30	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	-	5.0	0.60	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	-	4.0	0.40	-	-	
	3.3 設備の更新性	-	3.0	0.30	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.6	0.40	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	工場内天井無	1.0	0.20	-	-	
	4 通信配線の更新性	工場内天井無	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	シャッター有り	5.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	工場内天井無	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.40	-	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出	-	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	-	-	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮		-	1.5	0.30	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	-	1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-	-	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	-	2.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	-	-	1.0	0.20	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用	トップライト 計画	-	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化	LED照明の採用	-	2.0	0.50	-	-	2.0
4 効率的運用		-	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		-	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	空調機、換気、照明、太陽光発電系統に電力メーター設置	-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-	-	3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	-	3.6
1 水資源保護		-	3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水型大便器を採用	-	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		-	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-	-	3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無	-	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		-	3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減	-	-	3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	-	3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	基礎 高炉セメント	-	5.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	ケーブルラックを使用して配線	-	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		-	4.4	0.20	-	-	4.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		-	5.0	0.70	-	-	
1 消火剤	-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	フエンエース	-	5.0	1.00	-	-	
3 冷媒	-	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	-	-	3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮		-	3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止	建物に関する燃焼機器の不採用	-	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	卓越風に対し見附面積を小さく計画	-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		-	3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-	-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-	-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐車場、荷捌きスペースの確保	-	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	分別可能なスペースの確保し、種類・量の把握に努める	-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		-	3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		-	3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-	-	3.0	0.33	-	-	
2 振動	-	-	3.0	0.33	-	-	
3 悪臭	-	-	3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		-	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-	-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-	-	3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制	広告物照明無し	-	3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	-	4.0	0.70	-	-	
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	-	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

アルコニクス(株) アルミ銅センター(株)北九州支店移設工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-				-	-	-							
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		-	-	O	-	-	O	-	O	-	-	O	-	
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		-	O	-	-	O	-	-	-	O	O	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		O	O	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	O	-	O	-	-	-	O						
2.4.3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	-		-	-	-	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0		2.0	-	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	1.0	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0		-	3.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-			
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0		-	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 集排水等再利用システム導入の有無			-												
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-										
2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用			-	1.0	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		O	O	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	12.0		1.0	2.0	3.0	3.0	-	1.0	-	1.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		-	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	-	1.0		-							
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	0.9
U値(W/m ² K)	窓システム	5.8	屋根 0.8
外壁 0.5	床 2.9		
住戸部分 窓システムU値	-	外皮UA値	-

3.1.1 昼光率

昼光率	0.0%
自然換気有効開口面積率	0.0%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0m ² /人	病床	.0m ² /床	シングル	.0m ² ツイン	.0m ²
コンセント容量	0.0 VA/m ²					
天井高	0 m					
リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%			
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	12 m					
壁長さ比率	13.0%					
床荷重	3000 N/m ²					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	4%	建物緑化指数	0%
空地率	86%	水平投影面積率	5%

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _{Im}	-	断熱等性能等級	対象外 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数	0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%
		通風を満たす教室数	0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _{Im}	非住宅	1.00	住宅	- 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
-----------------------	-----	------	----	-------------------------------

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
特定調達品目	-
エコマーク商品	-
自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
オゾン層破壊係数(ODP)	0 地球温暖化係数(GWP) 1以下
オゾン層破壊係数(ODP)	0 地球温暖化係数(GWP) 8

2.4 車体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
オゾン層破壊係数(ODP)	0 地球温暖化係数(GWP) 1以下
オゾン層破壊係数(ODP)	0 地球温暖化係数(GWP) 8

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	9% 隣棟間隔指標Rw 1.12
地表面対策面積率	3.0% 屋根対策面積率 2.0% 外壁対策面積率 0.0%
見付面積Sb	482 m ² 越前風向と直交する最大敷地幅Ws 202.3 m 基準高さHb 25.68 m
緑地	980 m ² 水面 m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 300 m ²